

旅人と老人のお話



ある町がありました。一人の旅人がその町にやってきました。

町の入り口の門のところに一人の老人が座っていました。

旅人は聞きます。

「おじいさん、この町はどんな町ですか？」

おじいさんが聞きます。

「あなたが今までいた町はどんな町でしたか？」

旅人は答えました。

「前にいた町は嫌な人ばかりで、ろくな町じゃなかったよ。

だから、こうやって旅に出たのさ。」

おじいさんが答えました。

「そうですか、残念だけど、この町もあなたが前にいた町と同じで、嫌な人ばかりのろくな町ではありませんよ。」



また、別の日に旅人がやってきました。

「おじいさん、この町はいったいどんな町ですか？」

おじいさんは聞きます。

「あなたがこの前にいた町はどんな町でしたか？」

旅人は答えました。

「私が今までいた町は、人々はみんな親切で、誰とでも仲良く挨拶ができる素晴らしい町でした。」

すると、おじいさんはこう答えました。

「そうですか。この町もあなたが前いた町と変わらない、また、それ以上の素晴らしい町ですよ。」



二人の旅人が来た町は同じなのです。

それなのに、おじいさんの答えは正反対です。

このお話はどういうことを表しているのでしょうか。

それは、環境というものは「**その人の心が決める**」ということです。

私たちは何のために学んでいるかといえば、環境をよりよくするために学んでいるともいえます。

しかし、結局、環境をつくるのはその人で、「**その人の心が環境を決める**」のです。

環境に左右されるのではなく、環境を作れる人間になりたいですね。